滝高フロンティアサイエンス通信

H29.1.6（金）　SSH・理数科

第　２１　号

道外研修　東北コース（２日目）

報告者：２年Ｆ組７番 川越 聖哉

東北研修は２日目を迎えました。この日の早朝に伊豆沼でマガンのねぐら立ち（採餌のために周囲の水田へ飛び立つこと）を観察しました。その後伊豆沼から 30 分ほどのところにある化女沼（けじょぬま）を訪れ，センターで大崎市の職員による湿地の説明やマガンの歴史について講義を受けました（**図 1**）。その後 30 分ほどかけて蕪栗沼（かぶくりぬま）へ移動し，蕪栗沼の周囲を歩きながらガイドの説明を受け，水鳥の観察を行いました。

化女沼は前日に訪れた伊豆沼と同様でラムサール条約（**特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約**）に指定されています。かつては農業用のため池として利用されていましたが 1995 年にダム湖になり，生息していた動植物種の消滅が見られたといいます。その後，種数は回復し，日本へ越冬のためにシベリアから渡ってきたマガンやヒシクイ，ハクチョウが飛来するようになったため，ラムサール条約に登録され保全されてきた歴史をもっています。

図 1．化女沼で講義を受ける様子

蕪栗沼は湿地だけでなく周囲の水田もラムサールに指定された珍しいケースのラムサール湿地です。しかし条約登録を目指していた当時，周辺農家の理解と許可を得るのがとても困難だったため，様々な議論が交わされ，ようやくラムサール条約に登録されたという歴史をもっています。蕪栗沼は夏期の間，洪水調節用の遊水地として機能していますが，冬になるとマガンやハクチョウといった珍しい水鳥が多く飛来し，越冬します。私たちは湿地周囲を歩きながらマガンたちの越冬の様子を観察しました（**図 2**）。

図 2．蕪栗沼での観察の様子

化女沼のセンターでは，この貴重な環境を活かした「魅力的な地域づくり」の活動の様子を紹介していただき，湿地の保全と活用の両立の重要性を，実例をもとに学びました。